

EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）による虐待記憶の処理

—移行対象喪失の喪の作業を通しての自己再生—

市井雅哉（兵庫教育大学）

問題 Pynoosら（1996）は、子どものトラウマ性体験の複雑性に関する臨床知見として、子どもの関心や注意の中心が変化する可能性を上げている。例えば、子どもが、両親、兄弟、友人に危険が迫ったり、彼らがけがをしたりすると、自分自身の安全に関心を向けなくなり、癒しがたい共感的苦痛を体験することがある（Hoffman, 1979）。発表者は抑うつ症状が主たる訴えである、虐待的な環境で育った30代女性既婚会社員の面接を経験した。2年半前から睡眠障害、抑うつ気分が強くなり、離人症状が表れ、精神科を受診した。2年半の薬物療法及び、仕事を休職したことで、睡眠の問題は軽快し、トラウマ処理を目的にカウンセリングを開始した。親からの虐待の記憶をEMDRで扱うことで13回の面接で職場には復帰を果たしたが、企死念慮、抑うつは強いままで、子ども時代に唯一の理解者と思っていたペットを親に捨てられる高校時代の体験を処理することで、「生きる意味」を見つけ、抑うつが軽快、全18回で終結できた。

クライアント：30代半ば、女性、既婚、子なし、会社員。

x-3年7月精神科クリニック初診

主訴：睡眠障害（中途覚醒、早朝覚醒）、出社が辛い、倦怠感、吐き気→過食、希死念慮→「生きる意味」不明。不安、焦燥感。

診断：うつ病、後に偏頭痛追加

臨床像：メガネが印象的で、格好はさほどかまっている感じはなく、カジュアルな印象。話すときは表情豊かで、やや毒舌的な物言いで、自己主張は強い。部屋の前で木に没頭しながら大人しく待っている。

家族歴：支配的で暴力的な父親（夫婦げんかをなげ止めないと殴る、寝ていると起こされて叩かれる、包丁を突きつけられる）、CI5,6歳頃母親（うつ病？）出奔。その直後來た若い継母に無視された。1歳年上の姉は既婚子ども2人。CIは現在夫と別居中（3年間）（結婚（義父母と同居5年）は12年前）で、一人暮らし。

生育歴：幼少期、親と食事をしたことがない（両親は夫婦で夕食後おみやげを買ってくる）。小学校、中学校の記憶が断片的。小学校の頃、自家中毒で倒れたことがある。休みの日、父親がパチンコに行き、1000円渡されて、車に残される。平日は2,3時～8時まで姉妹2人で留守番。親が帰るとふすま1枚へだてて、息を殺す。全くの無視か、切れてるかのどっちか。部屋が散らかっていると殴られる。工業高卒、機械会社で設計の補助。1年後自立。アルバムなどをすべて捨てる。夫とは職場で知り合う。趣味は読書。

現病歴：x-3年10月～x-2年5月まで休職1回目（7ヶ月）

x-1年4月より休職2回目（復職期間11ヶ月、その後休職1年間）

x年4月から復帰のつもりが職場のカウンセラーから許可が出ず。精神科医は薬物療法が中心：デパス1mg、デプロメール150mg、ロヒプノール1mg、リフレックス15mg（カウンセリング開始時点）。

父親、継母から連絡があると、無理してつきあい、状態悪化。医師

から距離を取るように指導を受け、その結果、やや改善。

x年3月末カウンセリング初回

主訴：延長された3ヶ月間の休職期間を有意義に過ごしたい。トラウマ（親からされたこと）も扱いたい。親のことを忘れ去りたい。

ソーシャルサポート：夫は別居中で離婚に近い。夫の浮気を口実に家を出た。姑が子離れできていない。夫に手料理を食べさせたいが、姑がすべてしてしまう。職場は現在も夫と一緒に、仕事の大変さもわかる。夫の兄（CIの義兄）は遠方において夫に母親を押し付けている。実姉は相談相手であり、理解者。実父、継母とは夫との別居後、関係を取り持とうと接触があったが（「自分は悪感情を持っていない」と言い聞かせて会う）、疲れ、最近2年間は会っていない。実母は行方不明で、記憶はなく、会う気もない。高校時代の同級生3人がDV当たり前な環境の根暗な明るさを持った仲間。

DES=47.9（離人感が強い）、BDI 高く、希死念慮強い（中2くらいから）。

自我状態：自分、監視の人、死にたい人（一番強い）、楽しくやろうの人。

面接経過 #1～2：生育歴聴取、#3～7：自我状態療法（部屋で首吊りがあったりして、不穏。小学校の飼育小屋のウサギの記憶（資源）を使っても改善の気配がない）、#8：RDI（ネコの無邪気さ、イングランドの切り立った崖の景色の冷静さ）あまり効果を感じない。読書量の多さ。本の世界への没頭。→これを資源と考えることにした。#9：子で留守番、父帰宅時の緊張（NC:私は無価値だ。PC:私は生きていていい。感情：恐怖。B.S.:指の震え、手汗）をEMDR処理、SUDs:7→8,9（15セット）、#10：" SUDs:5→3（22セット）、#11：" SUDs:6→4（12セット）、#12：" SUDs:4.5→2（23セット）、#13：" SUDs:4→2.5（14セット）会社に復帰、#14：「父が猫を捨てに行く」（NC:私は何とかすべきだった。PC:できる限りのことをする。VOC:1。感情：悲しい。B.S.:目、鼻、手汗）をEMDR処理、SUDs:9→10（13セット）、#15："（感情：悲しい、自責。B.S.:手、食道重い）SUDs:10→6（32セット）、#16："の再評価、SUDs:2、#17～18：フォローアップ「一生抱えると思っていたトラウマが3,4ヶ月で消化できた」

考察 CIにとってペットは唯一の理解者であり、自分の分身とも言える存在だった。虐待親からペットを助けられなかった罪悪感を扱い、天国にいるであろうペットからの励ましをもらうモーニングワークが功を奏し、生きる気力につながった。

（EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）、虐待記憶、モーニングワーク）

イチイマサヤ